

雜報

●會員動靜

敘正六位 從六位 木下 益雄 (五月二十一日)

岡山醫科大學助教授 中川 小四郎 (五月二十六日)

泌尿器科學研究ノ爲滿二年間獨逸國佛蘭西國及亞米利加合衆國へ在留ヲ命ス

任岡山醫科大學教授 清水 多榮 (五月二十六日)

敘高等官六等 岡山醫科大學教授 清水 多榮

六級俸下賜 岡山醫科大學附屬醫學專門部助教授 戶田 茂

任岡山醫科大學助教授

敘高等官七等 岡山醫科大學助教授 戶田 茂

十級俸下賜 岡山醫科大學附屬醫學專門部助教授 三谷 弘

任岡山醫科大學助教授兼岡山醫科大學附屬醫學專門部教授

敘高等官七等 岡山醫科大學助教授 三谷 弘

十一級俸下賜 岡山醫科大學附屬醫學專門部教授 三谷 弘 (五月二十八日)

岡山醫科大學附屬醫院眼科醫員ヲ命ス

任朝鮮總督府道慈惠醫院醫官 陸軍二等軍醫正從五位勳四等 石原 貫一 (五月二十九日)

敘高等官四等 海軍軍醫少尉 木村 芳雄 (六月一日)

扶桑乘組被免陸奥乘組被仰付 免兼職 吳鎮守府附兼吳海軍病院部員海軍軍醫大佐 砂堀 雅人

免吳鎮守府附補海軍兵學校軍醫長兼教官 海軍兵學校軍醫長兼教官海軍軍醫大佐 砂堀 雅人 (六月十一日)

兼吳鎮守府附被仰付 岡山醫科大學助教授 中川 小四郎 (六月十一日)

在外研究中俸給十分ノ三ヲ支給ス 陸軍三等軍醫正正六位勳四等 難波 秀太郎

任陸軍二等軍醫正 陸軍一等軍醫從六位勳四等 淵 嘉吉

(各通) 陸軍一等軍醫從六位勳五等 高原 來二

任陸軍三等軍醫正 陸軍一等軍醫從六位勳六等 太田 九三男

姫路衛戍病院附被免 陸軍一等軍醫 中田 正景

補輜重兵第十大隊附 陸軍一等軍醫 中田 正景 (六月十三日)

○岡本英一君 曩日渡歐せられたる同君は三月下旬ベルンに着し直ちに同地大學に入學せられたり尙ほ同君への書信は左記宛にせらるへし

Bei Japanischer Gesandtschaft,
Bern, Schweiz.

○田中文男君 は月餘の旅行せられ四月下旬伯林に歸來暫時休養、六月上旬再び巴里を経て英國に入り八月下旬歸朝せらるゝ豫定なり

○大森大亮君 は四月下旬ウインを出立し巴里に赴き約一箇月間位同地に滞在し歸朝の途に上らるゝ豫定なり

○蓮井直衛君 多年京都帝國大學醫學部島蘭内科に於て研究に従事し居られし同君は今般本縣倉敷町倉紡中央病院の聘に應じ就職せられたり

○赤木元藏君 は大阪市北區本庄中野町濟生會大阪府病院に勤務し居られしか今般本縣倉敷町倉紡中央病院外科に轉勤せられたり

○松田國重君 は豫て兵庫縣武庫郡蘆屋岩崎醫院に勤務し居られしか今般大阪市南區谷町六丁目薄病院に轉勤せられたり

○赤尾壽君 は本年四月より撫順滿鐵醫院に勤務し居られ

しか今回家事の都合により安東滿鐵醫院に轉勤せられたり
○兒玉利堯君 は今般大阪市南區谷町六丁目薄病院に勤務せられたり

○松永威君 は今般南滿洲奉天小西關、日本赤十字社奉天病院に轉勤せられたり

○富岡諒一君 は大正九年岡山醫學專門學校卒業以來島根縣立松江病院に勤務し居られしか今般辭職郷里本縣吉備郡阿曾村に於て開業せられたり

○田丸要槌君 豫て當市島村眼科醫院に勤務し居られし同君は本月中旬より自宅(當市廣瀬町)に於て開業し午後は依然島村眼科醫院に於て診療に従事せらる

○清谷壽君 は本月一日より本縣吉備郡足守町に於て開業せられたり

○岡暢君 は豫て神戸市須磨浦療病院に勤務し居られしか今般同院を辭し本縣吉備郡服部村に於て開業せられたり

○下垣義知君 多年縣立松江病院に勤務し居られし同君は今般同院を辭し島根縣邇摩郡溫泉津町に於て開業せられたり

○福原謙君 は今般令兄と住所を交代し廣島縣賀茂郡八本松朝日通に移轉し依然診療に従事せられたり

●學位授與決定 井上秀男君は豫て論文を京都帝國大學醫學部に提出し醫學博士の學位を請求し居られしか去月二十

○藤井普一郎君 は過般大阪市西區市岡町に移轉開業せられたり

○稻富一郎君 は今般鳥取市吉方町に移轉開業せられたり

池山精一君逝く 君は明治三十九年岡山醫學專門學校を卒業し愛媛縣越智郡櫻井病院に於て診療に従事し近年今治市藏敷に移轉開業し居られしが去三月二十七日病を以て遠逝せられたりと洵に哀悼に堪へざるなり

廣瀬信孝君逝く 君は明治四十四年岡山醫學專門學校を卒業し豫て令兄と島根縣美濃郡都茂村に於て協同病院を經營し其外科部長として診療に従事し居られしか去月二十一日突然急病にて遠逝せられたりと洵に痛惜に堪へざるなり

一日の教授會議に於て學位授與の決定ありたり其主論文は左の如し

切除セル家兔腸管ノ輪狀及ビ縱走筋肉ニ對スル藥物ノ作用ニ就テ